

選別精度の向上が利益を生む! 体質改善で足腰を強化

加山興業(株)(愛知県名古屋市)
取締役 加山 順一郎

現場作業を総点検、その結果

■リーマンブラザース社の破綻に端を発した経済不況は、ドバイショックにより二番底の到来が叫ばれています。産廃業界も建設系を中心に取扱量の減少が顕著となっています。本年、これら状況に立ち向かうには何が必要でしょうか。

加山 これまでは営業活動を強化し、何とか売上げの下落幅を最小限に留め、業績を維持することに努めてきました。しかし、結果的に売上げはそこそこ上がっても、経常利益が下がってしまいました。そこで、足元を改めて見直し、固めていこうと昨年後半からは、現場作業の総点検に取り掛かりました。

■その結果、どのようなことが分かったのですか。

加山 点検データを分析したところ、取扱量が増え

ると目の前の搬入物に少しでも早く対応したいとの心理が働き、選別作業が粗くなり、資源化できる混入物まで最終処分対象物として搬出されていたのです。逆に考えれば「選別、資源化にはまだまだ伸び代がある」ということです。

■総コストに占める最終処分費用は、どれ位の割合なのですか。

加山 中間処理業を営む上での経費は、大別すると人件費および設備補修費、光熱費、最終処分費などが多くを占めます。中でも最終処分費は当社の場合、約3割に達していました。

■なるほど、それは看過できない数字ですね。

加山 そのコストを圧縮するには、当然ながら選別精度がポイントとなってきます。資源物の選別に注力すればするほど処分量は極小化へ向かい、収支



加山取締役



インタビュー



上:選別精度の向上が利益を生む 下:破砕・選別を行う豊川リサイクルプラント

も改善されていきます。

徹底した資源化で処分費を圧縮

■しかし、これまでの仕事のベース、慣習を変えるには相当のエネルギーが要りますね。

加山 工場のリーダーやスタッフに徹底して選別精度の向上が会社の利益に直結していることを訴え、現場の改善に着手しました。「君たちの作業が利益を生み、家族守ることにもつながっているんだ」と真剣に精神的な打ち込みをしました。その結果、徐々に従業員の意識が変わり始めました。

景気が悪くなると、どうしても取扱量の増減のみに目が行きがちです。当社は一線を引いてますが、中にはダンピングをしても荷の確保へ走る業者もいます。そうして一時的に取扱量が増やしても、工場現場では右から左へ「裁く」ことに気を奪われ、選別作業が粗雑になり本来資源化されるものまで、「残さ

となっていたのでは、二重のロスです。

■景気が良い時であれば、最終処分費が多少増減しても見逃しがちです。今だからこそ発見できたマイナス要因ですね。

加山 本来、常にコストを意識して業務・工程の改善に努めるのは、企業として当然の行為です。その意味で今その点に気付き、体質改善に着手できて良かったと思っています。徹底したコスト意識を持つということは、好不況に関わらず必要なことですから。

■それこそピンチをチャンスに変える、一つの手立てですね。話は変わりますが、設備投資面で将来的に考えておられることはありますか。

加山 長期的には、大型の焼却施設の導入を検討していきたく考えています。そのためにも、現在着手している「カイゼン」が企業としての足腰の強化につながり、生きてくると確信しています。

■なるほど、本日はお忙しい中、ありがとうございました。

NX